

会 議 錄

会議名	令和6年度第1回東浦町食育推進委員会	
開催日時	令和6年5月31日(金) 午後2時00分から午後3時30分	
開催場所	東浦町勤労福祉会館 会議室1	
出席者	委員	石川恭央氏、太田江美氏、林佑亮氏、水野雅宣氏、水野善久氏、山崎紀恵子氏、園田祐美子氏、柴田裕子氏、田島由美子氏、間瀬千恵子氏、アドバイザー 水野正明氏
	事務局	三浦健康課長、成田健康課成人保健係長、青山健康課成人保健係主事、水野農業振興課農政係長、鶴島農業振興課農政係主事、村上商工振興課長補佐兼商工観光係長、鈴木商工振興課商工観光係主事
欠席者	なし	
議題等	1 東浦町食育推進委員会の方向性について 2 食育体験プログラムの企画概要について 3 今後の委員会スケジュールについて 4 「食育」のトピックスについて 名古屋大学医学部付属病院先端医療開発部 先端医療・臨床研究支援センター長:水野 正明氏 5 その他	
傍聴者の数	0名	
審議内容	◆事務局 ・あいさつ ・配布資料確認 ・委員の任期 東浦町食育推進委員会設置要綱(以下、「要綱」という。)第4条第1項に基づき、委員任期を案内。 ・アドバイザーの紹介 要綱第6条第3項に基づき、アドバイザー及びオブザーバーに出席依頼した旨を報告。 ・会議の成立 欠席者なし。要綱第6条第2項に基づき、委員の2分の1以上が出席	

していることから、会議の成立を報告。

・委員自己紹介

(委員名簿の順に、各委員及び事務局自己紹介)

・委員長及び副委員長の選出

委員より、委員長に水野善久氏、副委員長に山崎紀恵子氏の推薦あり。異議なし。委員長及び副委員長として承認。

(議題1)第1回食育推進委員会の方向性について

◆事務局

東浦町は第2期東浦町いきいき健康プラン21を策定し、「健康でいきいきとした自分づくり家庭づくりまちづくり」を基本理念として、まずは一人一人が主体的に健康づくりに取り組むことから始め、家庭へ、まちへ健康づくりを広めていくことを目標としている。食の分野では「栄養・食生活」として記載している。昨年度教育機関に実施した食のアンケートより、食育を推進する機会や人材の不足といった課題を踏まえ、今後食育を推進する際には「健全な食生活を実践するとともに地域への愛着を深める」ことを目指す姿としたい。

令和5年度まで「ひがしうら Re-Bone グルメ」の推進を実施していた中で、生産者が食を生産し、消費者の元へ届くまでの食の循環が見えてきた。この食の循環こそが、食育の課題解決に繋がるのではないか。

本委員会の概要としては、食育分野の目指す姿を達成するために町民等の食育を推進することを目的とし、食育体験プログラムやひがしうら Re-Bone グルメの推進、家庭や教育機関、職域での食育の推進などの取り組みを行う。

昨年度の食育準備会で出た委員の意見を取り込み、本委員会では、食を楽しむ視点と食の問題を考える視点を持ちながら、調理体験や収穫体験、工場見学など体験を取り込み、食育を推進する機会の提供に努めていきたい。

食育体験プログラムの詳細は議題(2)で説明する。

食の循環を体験できるようなプログラムを実施し、町民自身に食の大切さを知り、考えてもらう機会を創出したい。今年度が初めてとなるので、委員と一緒に反省・改善点等意見を出し合い進めていきたい。

◇委員長

意見・質問を問う。

(意見なし)

(議題2)食育体験プログラムの企画概要について

◆事務局および委員

資料 2-1から資料 2-4-②により、令和6年度の取組内容を共有する。

摘果ぶどうやおからを用いて、「食材を作る」、「加工・調理」、「販売する」、「食べる」の食の循環を体験できるイベントを開催する。

夏休み期間中に、摘果ぶどうを知る青空教室、プロに学ぶおかしづくり体験、夏休み親子料理教室、摘果ぶどうの生絞り体験と摘果ぶどうタンブラーの蓋づくり、お豆腐づくりと工場見学、販売の体験イベントを開催し、10月に、料理研究家の浜内千波先生の料理教室とぶどうだらけナイトマルシェ（仮称）を開催予定。

◆事務局

メモリー株式会社については、イベント期間中（7月～9月）に社内での食育に関する取組を進めていただく予定。また、都やこについても、配食のお弁当に現在でも Re-Bone グルメを取り入れていただいているが、今後もお願いしたい。トーエイ株式会社さんについてもイベント期間中に都やこのお弁当を食べた方には、イベントのスタンプを押していただき、キャンペーンへの参加促進をお願いしたい。

食育体験プログラムの共通説明について、各プログラムの開始前に担当委員にお願いしたい。

すべてのイベントが関連していることが分かるように、現在検討中であるが、インスタグラムを用いる等周知方法を工夫していきたい。

広報ひがしura6月に食育に関する記事が掲載されている。

◇委員長

意見・質問を問う。

◆事務局

資料3 食育体験プログラムアンケートについて、各イベントの満足度の調査や次回以降に向けての改善のため、イベント終了後にアンケートを実施したい。

◇委員

このアンケートの対象はイベント参加者で良いか。

◆事務局

その通り。

◇委員

このアンケートはイベントに対して回答を求めるものであるため、参加者自身に食育に対しての関心がついたかどうか判断できないのでは。

◆事務局

現在のアンケート案では、各イベントに参加してどう思ったか、イベントに参加したきっかけを問うのが目的としている。食育に対してのアンケートについては、小学4年生から中学3年生を対象に、別で実施予定。

◇委員長

アンケートに記入者の情報(保護者か子どもかどうか)を記入する箇所があると良いのでは。

◆事務局

アンケートに反映する。

◇委員

アンケートの内容を子どもでも回答しやすい内容にすべき。記述式よりも、ある程度選択肢を提示し、選択してもらう方法が良い。

設問(5)今後こんなイベントがあったらいいなという質問は、記入者にアンケートの目的が伝わったうえで、食育に関連するイベントで住民が期待することを聞けたら良い。

◆事務局

このアンケートで今後の食育やイベントの指標となるような回答を参加者から得られるように、委員とともにアンケートの内容を検討していきたい。

◇アドバイザー

多くのイベントでそれぞれ目的を持って実施しているが、その目的が達成できたかどうかの評価形がない。本キャンペーンの目的として、「食に関する体験等を通じて豊かな人間性の育成と食への理解を深める」ことを掲げているため、これらを共通の指標とし、評価することが重要。それぞれのイベントを実施する中で、どうやって目的を評価するのかを取り入れると効果的。

また、それぞれのイベントが単発で開催されるため、関連しているかどうか分からぬ。各イベントが食の循環のどこを体験できるものなのかを、イベント概要にロゴ等の共通フォーマットを用いて表現すると良い。

◇委員

チラシについて、昨年度同様の見開きで一部が台紙になっている様式であるが、台紙を切り取った後用紙がもったいないという声が上

がっている。

◆事務局

チラシの様式について、不要な部分が発生してしまう点については理解している。

◇委員長

今後チラシの様式について、事務局において一考する。

また、今回多くのイベントを実施することとなり、各委員に任せて終わりでいいのか、それとも委員会全体で練っていく必要があるのかという心配点があるが、お気づきの点あったら事務局または委員長までお尋ねしてほしい。

(議題3)今後の委員会スケジュールについて

◆事務局

広報ひがしうら6月号に食育についての記事を掲載し、各プログラムの参加者募集が6月1日から開始される。

小学4年生から中学3年生までを対象としたアンケートに加え緒川小学校3年生を対象としたアンケートの2種類を実施予定。緒川小学校では総合の時間でぶどうの学習を実施する。学習を通して児童の食に関する意識に変化があったかどうか、学習前後にアンケートを行う。

次の委員会は6月下旬から7月上旬に開催予定。

学校給食について、毎月11日におからを使ったメニューを提供する。給食だより内のコラムや校内放送において周知を行う。

◇委員長

緒川小学校でのアンケートと資料3のアンケートは異なるものか。

◆事務局

緒川小学校へのアンケートは昨年度食育準備会で内容を委員と検討し作成したもの。内容は朝食をとれているかなど、食に関する意識と行動の変容を問うもの。

◇委員長

質問・意見を問う。

◇委員

本委員の開催頻度は、スケジュール通り毎月一回開催するという認識で良いか。

◆事務局

スケジュール通り、8月、1月、3月を除いた毎月一回の開催を予定している。ただし、次回の委員会が6月下旬から7月上旬を予定して

いるので、日程によっては予定より1回開催数が減る可能性がある。次回の開催日は今後日程調整を行う。並行して、各プログラムの担当委員とは内容についての打合せを行う。

◇委員

本委員会を開催するにあたり、食育やRe-Bone グルメを推進する中で各委員が共通の課題や認識をもって意見を持ち合える場としたい。例えば、周知方法について、町のホームページでもインスタグラムでもいいが、本委員会の取り組みを PR できる場があると良い。今回実施する体験プログラムについても、住民の方がホームページ等でまとめて閲覧できるホームページや SNS があると良い。

◆事務局

東浦町の健康課のホームページで食育についてのページを作成している。また、食育体験プログラムをまとめたページについては、6月1日から公開予定。

次回以降の本委員会の課題として、委員とともに周知方法について検討していきたい。

◇委員長

その他ご意見・ご質問を問う。

(意見なし)

(議題4)「食育」のトピックスについて

名古屋大学医学部附属病院先端医療開発部

先端医療・臨床研究支援センター長：水野正明先生

◇アドバイザー

2005 年に策定された食育基本法を理解した上で食育の取組を進めるべき。当時、食に関する知識をつけ、食を通して健康な体をつくることが目的であった。2011 年の第2次食育推進基本計画では、第一に食育は全年齢を対象とした食育の改善、次に生活習慣病の予防及び改善、そして子どもへの食育の推進を基本方針として掲げていた。昨今の食育は主に子どもへの食育の推進を重点目標としているが、食育の始まりはすべてのライフステージに応じるものであったことを念頭に置くべき。

現在の第4次食育推進基本計画では、第1次から第3次計画と共に、生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進に加え、持続可能な食を支える食育の推進が重点事項として掲げられ、食を通して健全な社会をつくることがテーマとなっている。

本委員会においても、第4次食育推進基本計画を念頭に取り組み

を進める事が重要。再生可能な生物資源やバイオテクノロジーを利活用し、持続的で再生可能性のある循環型の経済社会（バイオエコノミー）という考え方がある。食物の生産から食べるまでの地産地消の食の循環を東浦町内で行うことで、町全体が健康していくことができる。このサイクルの中での食育の活動は、生産者にとっては食物を生産する際の肥料を必要最小限にするという課題、消費者にとっては食品ロスをなくすという課題を解決し、地産地消のサイクルを繋げることである。また、食品ロスから生まれた食材を利活用し再び食のサイクルの戻すことも食育の役割である。

最終的には食の循環を東浦町内で完結できるようにするために、そのためには何が不足しているのか課題を洗い出し、解決していく取り組みを本委員会で進めていけると良い。

食育は個人が健康づくりを行いうイベントを実施するだけでなく、食を通して社会の無駄をなくし、社会をより良くしていくための問題を考えるというステージに到達している。

熱中症対策のため、水をとることも食育の一つである。必要な水分はおよそ3リットルと言われているが、人間は水分補給をする以上に食物から水分を得ている。米の7割は水分であり、野菜の9割は水分である。食事をするということは栄養をとる以上に水分補給ができるということであり、食物には塩分が含まれていることから、熱中症予防に繋がる。

食育を推進する中で、食に関連したイベントを実施することに偏らず、人間の体のメカニズムを理解し、維持していくために社会の活動をどうしていくかという部分に目を向けていくと良い。

◇委員長

意見・質問を問う。

◇副委員長

熱中症予防のため水分と糖分をとるように言われているが、自分自身は糖分を控えている。糖分は必要であるのか。

◇アドバイザー

糖分も必要な栄養素なので重要。また、一人ひとりの栄養素の吸収力は異なるため、自分自身の体を理解し、必要な食事量を理解すべき。

同じ時間帯で体重測定すると、体重の500g前後での増減が分かるため、習慣づけることで適正な食事量の判断ができる。こういった身近な習慣においても食育の成果の指標とすることができます。

◇委員

自分に見合った食事量を知ってもらい、改善に繋げていけるような食事改善のプログラムがあると良いと感じた。

◇アドバイザー

大阪学院大学の取り組みで、食品サンプルで過去の食事を再現しAIに見せると食事量が適正かどうか判断してくれるものがある。食育で問題となっている野菜不足についても、カゴメ(東海市)によるベジチェックの機械を用いたイベントを行う中で、参加者のイベント前後での栄養素取得量が増加し成果が出ているため、栄養素の見える化が効果的。

◇委員長

貴重なお話をいただいた。本委員会の今後の活動に生かしていきたい。

◆事務局

委員会全体でご意見・ご質問を問う。

◇委員長

各体験プログラムに募集要項があるのか。

◆事務局

募集の詳細について、町ホームページにおいて各プログラムで統一した形式で掲載しているため、確認することができる。

◇アドバイザー

体験プログラムすべてをまとめて閲覧できるホームページを一つ作成することが重要。

◇委員

町ホームページのイベント一覧の部分に掲載されるのか。

◆事務局

その通り。

◇委員

本委員会の取り組みとして、住民に食に対する知識を習得してもらうことで行動の改善に繋がり、評価を行っていくことが重要。アンケートの内容も、各プログラムの評価指標に加え、食育体験プログラムの参加者の意識と行動の変容を促すことができるような内容になると良い。

町の公式ホームページのドメインの強さを生かし、本委員会の取り組みを周知したい。検索キーワードについて、食育推進委員会というワードだと固い印象があるので、ハッシュタグを作成するなどキャッチーなワードでPRできると効果的。新聞をはじめとした各種メディアに取り上げてもらい、本委員会の活動を広めていきたい。将来的には

東浦町の取り組みが近隣市町村へ、知多半島へ、県全体へと広まっていき、始まりは東浦町であるということがPRできると良い。

◇委員

広報ひがしらでの周知を行っているが、児童課の窓口にお越しになる子どもを持つ保護者の中には、広報が届かない世帯があるという現状がある。広報での周知が届かない世帯のために、ホームページは効果的であるが、ホームページを見てもらうための工夫が必要。

◇委員長

QRコードを掲載したチラシなどを多くの人が集まるような施設に掲示することで、効果的に周知できるのではないか。

◇委員

学校メルマガやアプリの活用はできないのか。食育体験プログラムの対象を主に小中学生と設定しているので、その保護者の目に留まるメルマガ等で発信することで一斉周知することができ、効果的なのではないか。

◇委員

町の公式ラインはどうか。

◆事務局

学校メルマガについて、他事業で活用している実績があるため、検討していくたい。今後のインスタグラム等を活用した周知方法について、次回の委員会で検討していくたい。

◆事務局

行政のみの周知では弱い部分があるため、委員にも周知活動の協力をお願いしたい。

◇委員

食育体験プログラムを実際に運用して分かった課題や疑問に思ったことを洗い出し、共通した課題解決に向けて意見を出し合い、動いていくことが重要。食育のイメージについて、一人ひとりの健康づくりにとどまらず初めて社会全体をより良いものにしていくことであることを、初めて学んだ。一般的に食に関する知識を十分にもった人は少ないと思うので、食育を推進するうえで、住民目線で普段の生活に寄り添い、多くの人の関心が向けられるような活動を本委員会で行いたい。

◆事務局

今年度は食育体験プログラムを実施する中で見えてきた課題や改善点について、委員と意見を出し合いながら、今後の本委員会の活動について検討していくたい。

	<p>◇委員長 本委員会で食育を通して東浦町をどのようなまちにしていきたいのか、その共通理念を達成するためには何が必要なのか、徹底的に議論を行うことが重要。</p> <p>◆事務局 連絡事項として、配布資料の熱中症対策のチラシと日本老年医学會学術集会の開催に伴う市民講座のチラシについて説明。 閉会を宣言。</p>
備考	なし